



IUFRO-J NEWS

No. 31 (1987.7) —

新 任 ご 挨拶

IUFRO-J 議長 山 口 博 昭

形のうえでは4月の機関代表者会議の書面審議により、実質的には5月、東京で開催された本会理事会のご承認を得て、この度議長をお引受けすることになりました。不慣れではありますが、会員皆様のご支援を得ながらその責務を果たして参りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。またそれとともに、これまで本会の運営にお竹折り頂いた難波宣士前議長に心からお礼申しあげたいと思います。

昨年9月、ユーゴスラビアで開催された第18回ユフロ世界大会には、わが国からユフロ-J会員の13%にあたる実に128名の多数の方々に参加しております。この時の模様、会員の活動状況については、本誌 No. 29, No. 30 にいろいろ報告されており、すでにご承知のとおりです。また本年9月には、第一部会に属する「亜高山帯の生態」についての研究集会在日本で行われるほか、世界各地で各種のユフロ関連の集会在開催され、それぞれ関係の会員の方々はその準備に追われていることとします。1981年に日本で世界大会が開催されて以来、ユフロへの関心が高まり、それがこうした諸活動に反映されてきていると思われ、その意味でも本会の存在はま

ずます重要な意義をもってくるように思われます。

ところで、去る4月下旬アフリカで開催されたユフロ理事会において、特別プログラムとしてアフリカの林業問題がとりあげられ、今後 FAO、ユネスコ、世銀、その他関係諸国団体と連携をとりながら、これら発展途上国の森林のあるべき姿を求めていくという方針をうち出したことが、同理事会にわが国より出席した小林富士雄理事によって報告されています。ユフロ活動の力点を発展途上国におき、行動する学会として脱皮していこうという方向が示されたように思われます。最近何かにつけ、国際社会における日本の役割ということがよく問われますが、ユフロ活動においてもまさにその通りで、今後はこうした観点からわが国の活動、協力が求められてくるのではないのでしょうか。従来の研究集會に加え、こうした要請、期待にもこたえていけるよう本会の活動も考えていく必要があるように思われます。これらの点も含め、皆様のご意見を伺いながら本会の活動をより有意義なものにして参りたく、皆様のご協力、ご支援を切にお願いする次第です。

コ ン ゴ 理 事 会 報 告

ユフロ理事 小 林 富 士 雄

今年4月23～29日、コンゴのポイント・ノアールで新メンバーによる第1回理事会が開催された。今回は拡大理事会であるため、理事会メンバー19名のほか、8名の副部長、特別参加4名を加え、計31名の出席があった。

ポイント・ノアールは首都ブラザビルから東へ45分の飛行で達する海岸町である。第1回理事会の開催場所としてこのような遠隔の地を選んだのは、ユフロ活動の一環として着手している開発途上国特別プログラム(SPDC)に寄せるバックマン新会長の並々ならぬ決意の程を理事会に周知させるという意図によるものである。

日程もこれを反映して、アフリカの林業研究問題討議に1日、試験林視察中心のエキスカージョンに3日間を投入した。同伴者なしという会議にふさわしく、食事抜きで夜遅くまで討議したり、難路に行くエキスカージョンも組込まれていた。以下、議事を中心に取りまとめ報告する。

(1) 開会・挨拶

コンゴ共和国科学・環境研究省大臣が開会挨拶のため出席した。開会に続いて昨秋急逝した W. Bosshard 氏(ユフロ理事、会計担当)に対する黙とうがあり、氏の後任として F. Schmithüsen 氏(スイス)が紹介された。そのあと型どおり、出席者の自己紹介、議事日程の承認が行われた。

新会長は挨拶のなかで、この理事会の特徴としてアフリカの林業研究に関する討議を第一にあげた。またユフロの特別プログラムとして、途上国問題のほか大気汚染問題についても今後重点を注ぎたい旨を述べた。

前会長 Mlinšek 氏からは18回大会の報告が行われ、この体験をもとに次期大会への勧告を行った。

(2) 事務報告・会計予算

Bein 事務局長が事務局の現状、ユフロニュースと年報の問題点、加盟状況研究グループの現状などを報告した。加盟機関数と研究者登録数は別表の通りで、いずれも増加傾向にあり、とくに研究者数はここ3年間で倍増している。一方研究グループは Subject (36)、Project (22)、WP (173) で、不活発なグループを整理しているためむしろ減少気味である。

1986年の会計報告が提出され、下記の運営委員会で審議し全体会議で承認された。1986年は世界大会年で

あるため前年より約17万Sフラン多い約15万Sフランの支出となった。

1987年の予算は運営委員会で一部修正され全体会議で承認された。1987年予算の例年予算との違いは、会長用支出の大幅減と事務局費の増である。

(3) 各種委員会

運営、プログラム、栄誉・賞の3委員会の役割が決められ、委員の割りつけが一部を除いて決定した。夫々が分科会を開き、当面の問題を検討した。

運営委員会の総括は Cayford (正)、Tessier du Cros (副) で、主として地域理事がメンバー。財政、事務局、ユフロニュース・年報、地域、国際関係の小委員会に分れ、筆者はこのうち財政、地域、国際関係(ITTO 担当)の受持になった。運営委員会ではユフロニュースの体裁が魅力的でないことが話題になり、またユフロ活動の宣伝が必要であることが論議の中心であった。例えば Congress Declaration をマスコミに流す方法、ユフロの日常活動の記事を Unasylyva にのせることなど。

プログラム委員会の総括は Salleh 副会長で、主として部長理事がメンバー。その主任務である研究グループ活動について予定されている会合が報告された。プログラム委員会のこれからはとくに、特別プログラムのレビューを行うことが重要な任務となる。特別プログラムの二番手として計画中である大気汚染問題については、Balteusweiler 主査から task force 案が紹介され、東

地域別のユフロ加盟状況

地 域	加盟機関	研究者数	1機関あたり 研究者数
北 欧	78	1,231	16
中 欧	89	1,230	15
東 欧	18	978	54
地 中 海	60	1,116	19
北 米	185	4,079	22
中 南 米	57	815	14
アフリカ	52	823	16
ア ジ ア	70	3,016	43
西大平洋	56	1,506	27
計	665	14,794	(平均) 22



リンバ (*Terminalia superda*) の造林地
林内にカカオを栽培している。



ユーカリ造林地



原生林

独で集会をもつ計画であるという報告があった。

荣誉・賞委員会の総括は Brown で、メンバーは混成部隊であり、筆者もその一員に加えられた。ここでは、学術賞が先進国に偏りかちなことや年齢制限問題が論じられたが、本格的な論議は次期理事会にもちこされた。

(4) アフリカの問題

アフリカの林業研究—その問題点と解決方向—という話題ではほぼ1日の会議が行われた。今回の話題提供や現地エクスカーションには、コンゴに支所をもつフランスの CTFT (熱帯林業研究センター) が全面的に協力した。

F. Rodas (FAO 代表理事) はアフリカの林業全体の問題点と FAO の果している役割について述べた。Cailliez (CTFT) と Clement (フランス政府) がフランス語圏について、Burley (部会理事) と Iyamabo (SPDC アフリカ担当) が英語圏について話題提供を行った。

問題か余りにも広範で、内容を要約することは難しいが、燃料としての木質資源の重要性、農業を含んだ土地利用計画の必要性などは共通的な認識であると感じた。

討議の終りに会長から、開発途上国問題について次のような発言があった。途上国の林業問題へのユフロの取組み、とくに SPDC の発足は京都大会に端を発していることから説きおこし、これまでアジア、アフリカで行われたワークショップ、さらに次回ワークショップを中南米で行うことなど具体的取組みを述べた。ついで類似の活動をしている各種機関、とくに TFAP (FAO),

ICRAF, Tropen Bos などとの関係に触れ、ユフロは研究計画の部分を担当することが任務であり、今後活動を充実するために財政基盤の確立が必要であることを強調した。

以上、アフリカ問題の論議については、The future of Africa のタイトルでユフロニュース No. 56 に要約掲載される予定である。

なお、土・日を中心に CTFT 職員の案内でコンゴの森林・林業の一端に触れることができた。その一部を写真で紹介する。

(5) 次期大会ほか

次期第 19 回世界大会は 1990 年カナダのモントリオールで開催される。会場は Convention Centre、会期は 8 月 5 日 (日) ~ 11 日 (土) を予定している。大会にむけてのスケジュール案が示され、メインチームの予備検討が行われた。

なお次期理事会は本年 12 月 7 ~ 11 日、ローマの FAO 本部で行われる。

「山岳林への人為の影響と管理」に関する 国際研究集会について

集会事務局・林試 新 田 隆 三

IUFRO 亜高山帯の生態研究グループ (P 1. 07-00) は、これまでニュージーランド、アメリカ、スイスと3回 (2~3年に1回) にわたり30~50名規模の国際研究集会を開いてまいりました。

いよいよ9月には日本で「山岳林への人為の影響と管理」をメインテーマにかかげた集会を開催いたします。その次は1989年に中国での開催が予定されております。

国内からの参加者向けに今回の集会の概要を紹介いたします。

会 場

富士教育研修所 (静岡県裾野市下和田656 tel. 05599-7-0111) 新幹線三島駅よりタクシーで約3千円。宿泊も同研修所。

集会日程

- 9月5日 (土) 午後1時半集合。開会式およびセッション
- 6日 (日) 午前と午後はセッション。午後6時~8時にレセプション (主催: 静岡県, 裾野市, 静岡県山林協会)。
- 7日 (月) 富士山見学: 表富士~5合目~御殿場のコースの中で植生、水、雪崩、林地保全などの試験研究の現場を訪問。
- 8日 (火) 午前セッション。午後はポスターセッション。午後5時までセッション終了、閉会。
- エクスカージョン日程
- 9日 (水) 裾野-蝸科高原-八ヶ岳。縞枯山。(麦草ヒュッテ泊)

- 10日 (木) 八ヶ岳・みどり池付近。(稲子湯泊)
- 11日 (金) 草津、横手山。(志賀高原泊)
- 12日 (土) 志賀高原。(同泊)
- 13日 (日) 志賀高原-東京 (箱崎午後4時解散予定)

参加者と研究発表

海外からの参加申込み (7月7日現在) は米国4名、中国4名、スイス3名、ニュージーランド、インド、フランス、西ドイツ、オーストリア、カナダ、ブルネイ、韓国各1名という状況です。海外から約20名、国内から約30名の参加が見込まれます。

研究発表の中身は多岐にわたりますが、まだセッションのプログラムは確定しておりません。「樹木生理」「ストレスと樹木生長」「雪崩、林地保全」「人為的森林荒廃」「山岳林の管理」「山岳林の構造と更新」などの分野の30件前後の研究発表が行われる予定です。

参加費用と申込み

研究集会: 1人6万円 (食事・宿泊と論文集を含む。予約金2万円)

エクスカージョン: 1人4万円 (予約金1万円)

これらの申込期限は過ぎていますが、参加希望者は事務局へ至急お問い合わせ下さい。なお、研修所に宿泊せず参加される場合の「参加費」(論文集込み) は3万円です。この分野の知名な研究者と直接話を交すことのできるチャンスです。お問い合わせ御参加下さい。

事務局: 林試防災部・新田 tel. 0298-73-3211 (内線448)。

両国において第5回 ICFL を開催いたします。現在、1990年にイタリー、オーストリア、スイス3国の地すべり現地視察、討論会とインスブルックでの2日間の会議からなる第6回 ICFL を計画しており、これについてはオーストリア農林省より後援の内諾を得ています。

また、第4回 ICFL の際のビジネスミーティングにおいて、国連食料農業機構 (FAO) の代表等の意見により、日本の地すべり学会が世界の地すべりに関する情報交換のセンター (Focal Center) として作業することを決議し、現在その一環として国際的なニュースレター "Landslide News" の発行を準備しています。本年7月上旬に創刊号を発刊予定ですが、第1号の発刊後、地すべりに関するユフロ他の国際学会や、創刊号に挨拶をいただいたユネスコなど学会以外の国際的組織からの

公式な後援を依頼したいと考えています。英文のニュースレターを発行ということで苦労していますが、ことに財政的基盤の確立に苦慮しております。

会員の皆様にはこのニュースレター (英文20ページ、和文概要6ページ、A4版アート紙3色刷り、一部1000円) を購入いただき、ご支援くださるようお願い致します。また、財政的に後援していただけないような組織、団体、会社があれば、ご示唆いただければ幸いです。

(京都大学・佐々恭二)

Landslide News 申し込み先 (連絡先):

〒611 宇治市五ヶ庄

京都大学防災研究所地すべり部門内

Landslide News 事務局

Tel: 0774-32-3111 内 (3171, 3172)

Div. 2, S 2.06.01 根腐病と根株腐朽病セッション

表記ワーキング・グループの第7回国際討論集会在以下の要領で開催されます。

開催地: カナダ, ブリティッシュ・コロンビア (British Columbia, Canada)

開催日: 1988年8月10日 (水)~16日 (火)

10~13日: Vernon Lodge Hotel

14~16日: University of Victoria

参加費 (登録料): 100カナダドル (予定)

討議の内容: 根腐病菌類の分類と遺伝, 根腐病の発生

誘因 (大気汚染その他), 熱帯の根腐病, 根株腐朽病の生理・宿主の防衛反応・遺伝的抵抗性, 複合根腐病など。

連絡先: Dr. Duncan Morrison, Organizing Chairman IUFRO S2.06.01, Pacific Forestry centre, 506 W. Burnside Rd, Victoria, British Columbia, Canada V 82 1M 5

(国立林試・小林享夫)

Div. 3. S 3.01 森林作業部会の大会後の動き

1987年より1990年迄の役員が決まった。コーディネーターは、M.M.G.R. Bol (NETHERLAND) 氏より P.O. Nilsson (Sweden) 氏に代わった。

1988年より1990年に予定されている DIVISION 3 関係のプログラムは次の通りである。

- 架線集材作業; 1988. 5, アメリカ (S 3.06)
- IUFRO 第3部会会議; 1988, スカンジナビア
- 伐採後の人工及び天然林の造成について; 1988, GDR. (S 3.02, FAO/ECE/ILO)
- 森林作業計画のシステムのアプローチ; 1988, スコットランド (S 3.01-01)
- 開発途上国の集材技術と労働安全についての考察; 1988, アフリカ (S 3.05, P 3.03)
- 山岳林の開発のための計画法; 1988. 9, ノルウェー

(P 3.03)

- 森林作業の請負に関する問題; 1988, フランス (FAO/ECE/ILO)
- 森林造成作業の経済的分析; 1989, 南半球 (S 3.02-02)
- 熱帯における森林作業の訓練コース; 1989, コスタリカ (S 3.05)
- エルゴノミクスの研究と林業への応用; 1989, チェッコ (P 3.03)
- 熱帯における伐採による環境への影響; 東南アジア (S 3.05)
- エネルギー問題と収穫; 1990. 7. FRG (P 3.01, FAO/ECE/ILO)

(東京大学・南方 康)

Div. 3. S 3. 06. 00 山岳林森林作業の動き

すでにユフロニュース No. 53 で御承知の部会シンポジウムがエクスカージョンを含め、10月17日から10日間パキスタンのバンバルで開催される。シンポジウムのテーマは、「ヒマラヤ地域の社会・経済問題解決に果たす林業研究の役割」と題され、その内容は森林の伐出技術と作業をめぐる研究が、上記問題解決にどのように貢献するか、について進められる模様である。このシンポジウムには世界の主要国からの参加が見込まれて

いるが、残念ながら私は学生演習林実習と重なり出席できず、終了後にその模様をお伝えすることは困難である。

なお、その席に参加予定者の1人、Dr. F. Pfister氏(スイス林試、林業工学のチーフ)は、そのあとひきつづき日本を訪ね、次回のユフロ大会の打合わせを兼ねて、日本の山岳林森林作業を見学したいと希望してきて居り、10月29日～11月6日の滞日プログラムを目下準備中である。(岩手大学・大河原昭二)

Div. 4. 第4部会の手紙連絡網

この部会では次の研究集会被開かれます。しかし、これについての案内が国内のユフロ会員に届くとは限りません。そこで必要なことを迅速に伝えるための連絡網

「ユフロレター4」を作ります。第4部会の情報に関心のある方はこの郵送名簿に登録されるようお願いいたします。

ユフロレター4 登録用紙

私を「ユフロレター4」の郵送名簿に登録して下さい。

氏名 _____ 機関名 _____
宛名 〒 _____

送り先 〒 399-45 長野県上伊那郡南箕輪村 8304

信州大学農学部林学科森林利用学 八木 緑

- | | | |
|--------------|------------------|--|
| (1) 1987年3月 | クラコフ (ポーランド) | Forest Decline and Reproduction |
| (2) 1987年8月 | ミネアポリス (アメリカ) | Forest Growth Modelling and Prediction. Economic Evaluation of Short rotation Biomass Energy Systems |
| (3) 1987年9月 | ツボレン (チェッコ) | Production Possibilities of Forests Optimal Utilization and Management of Forest Enterprises |
| (4) 1987年9月 | ブタベスト (ハンガリー) | Problems of Forest Management Planning in Stands |
| (5) 1987年11月 | シアトル (アメリカ) | Forest Sector and Trade Models |
| (6) 1988年6月 | クアラルンプール (マレーシア) | Growth and Yield of Tropical Mixed Moist Forest |
| (7) 1988年7月 | エディンバラ (スコットランド) | A System Approach to Forest Operations Planning |
| (8) 1988年8月 | ルイジアナ (アメリカ) | Wetland Inventory |
| (9) 1988年9月 | ウプサラ (スウェーデン) | Modelling Forest Growth Processes |

(10) 1989年5月	ソブロン (ハンガリー)	Automatic Accounting Systems in Forest Operations
(11) 1989年9月	ベニス (イタリア)	Global Resource Assessment 2000 and beyond
(12) 1989年8月	シラキュウス (アメリカ)	Forest Inventory Methodology
(13) 1989年秋	ウィーン (オーストリア)	Growth Models, Expert Systems and Forest Management

(信州大学・木平勇吉)

Div. 5. 第5部会大会の開催について

第5部会は1988年の5月15日から19日までの間、部会の大会をブラジルのサンパウロで開催する。

大会委員長は第5部会のコーディネーターである Dr. R.L. Youngs でローカルコーディネーターにはブラジルの Dr. Amantino Ramos de Freitas が指名さ

れている。

この大会のテーマは「社会および経済の進歩のための木材資源の有効利用」である。

詳細については、各グループのリーダーあるいは大会委員長にお問合せ下さい。(国立林試・須藤彰司)

Div. 5. S 5. 04. 08 製材と木工

Mid-Term 第5部会大会がブラジルで1988年5月15日から20日まで開かれる。この期間内にテクニカル・セッションを1回開く予定である。中心テーマは次のとおりである。

「木材加工における新しい技術」
発表希望者は1987年11月30日までにタイトルおよび

要旨を下記までお送り下さい。

(京都大学・野口昌巳)

記

〒606 京都市左京区北白川
京都大学農学部
野口昌巳

Div. 6. S 6. 05. 00 リモートセンシング・サブグループの動き

今回の1990年の第19回 IUFRO 大会までの第6部会リモートセンシング・サブグループの活動については、Chairman: V. Zsilinsky (カナダ), Co chairman: J.A. Howard (FAO), H. Kenneweg (Germany), I. Ohnuki (日本) が前期に引続き担当させていただくことになりましたのでよろしく御協力をお願いします。ところで、来年1988年は中間年にあたります。国際写真測量・リモートセンシング学会 (ISPRS) の京都大会が同年 (1988年) 7月1日~10日に開催される機会を

利用し、我々のサブグループの中間年の研究会をこの ISPRS の第7部会との共同セッションとして開催することを計画しています。この ISPRS 京都大会は東洋ではじめて開催されるもので、関係者の強い期待が寄せられ、内外から多数の参加者が予定されています。この大会の成功のためにも我々の S 6. 05-00 リモートセンシング・サブグループの発展のためにも、積極的な参加をお願いします。詳細については後日関係各位に御連絡致します。(国立林試・大貫仁人)

IUFRO-J 幹事会 (議事録)

昭和62年6月2日(火) 14:00~16:00

日本林業技術協会別館会議室

出席者

山口議長, 難波前議長

小林幹事長, 浅川前幹事長

各幹事: 南雲(東大林), 林(東京農大), 難波(日大), 岩川(静岡大), 鈴木(名古屋大), 前田(宇都宮大), 荒木(筑波大), 事務局(樋渡)

開会にあたり, 小林幹事長より, 「すでに郵送書面によって各機関代表の審議, 承認を得ているため, 変則的ではあったが新議長名で幹事会の招集を行った。しかし前議長の下で行なうべき内容の幹事会であるので, 前役員で議事を進めたい」との発言があり, そのように取り計られた。

前議長の挨拶にひきつづき, 前幹事長より61年度事業報告, 61年度会計報告, 62年度事業計画案と62年度予算案および役員改選について報告され, 全幹事によって承認された。

その際, 幹事から特別会計の使途についての意見が出された。その内容は, わが国で開催されるユフロ分科会, 研究集会等への助成を制度化して, 特別会計より支出する方途を設けたらどうかということであった。現在までユフロ活動協力基金から助成がなされてきたが, 昨今の基金利息の減収により, 今後はユフロ活動協力基金から従来通りの助成は期待できない状況にあるので, 今期中に検討することになった。

またユフロ-J ニュースの充実のためユフロ本部の役員の方々に御協力していただき, 各部会, 分科会, 研究会等の活動やその他の動きをタイムリーにニュースに掲載できるように通信員役をお願いすることが諒承された。

ひきつづき小林理事より, アフリカのコンゴで開られた第20回ユフロ理事会(別掲)の報告があり, 若干の討議をして閉会した。

議事: (機関代表会議議事と同一)

1. 昭和61年度事業報告

1) IUFRO-J NEWS の発行 No. 28, No. 29, No. 30.

(各1300部)

2) 会員の現況

A 会員	大 学	27 機関	585 名	(内学生 4 名)
	その他	3 機関	56 名	
	国立林試	1 機関	338 名	
	計	31 機関	979 名	
B 会員		12 県	15 口	
C 会員			6 名	

3) 第18回 IUFRO 大会参加の役員, 発表者等への助成

(1) 大会役員, 発表者への助成

(2) 開発途上国への援助

(3) IUFRO-J NEWS 大会特集号の発行

(No. 29, No. 30)

2. 昭和61年度会計報告

1) 昭和61年度一般会計収支決算報告(別掲の通り)

2) 昭和61年度特別会計収支決算報告(別掲の通り)

3) 第18回 IUFRO 大会助成金等の支出内訳

4) 昭和61年度会計監査報告

湯本和司監事(代)から別掲の通り厳正, 正確に処理されていることを認める旨の監査結果の報告があり承認

3. 昭和62年度の事業計画

1) 幹事会の開催 (6月2日)

2) 情報活動

(1) IUFRO-J NEWS の発行

(2) 62年度開催予定の各部会, 分科会研究会に関する速報および出席者による活動報告

(3) その他

4. 昭和62年度予算案 (別掲の通り)

5. IUFRO-J 役員の変更

IUFRO-J 議長 山口博昭(林業試験場場長)

IUFRO-J 幹事長 小林富士雄(ユフロ理事, 林業試験場調査部長)

昭和61年度一般会計収支決算書

(収入の部)

(62年3月23日現在)

科 目	収入予算額	収入決算額	備 考
前年度繰越金	750,358	750,358	
会 費			
60年度未納分	488,000	475,000	
61年度会費			
A会費	973,000	942,000	
B会費	75,000	60,000	
C会費	3,000	4,000	
62年度前納分			
C会費		1,000	
雑 収 入	5,000	5,544	
合 計	2,294,358	2,237,902	

昭和61年度一般会計収支決算書

(支出の部)

科 目	支出予算額	支出決算額	備 考
情報活動費	615,000	134,000	IUFRO-J News No. 28 No. 29, No. 30 は大会助成金から支出
会 議 費	50,000	43,500	機関代表会議用
旅 費	250,000	150,400	理事会出席旅費分担
雑 費	79,358	32,788	
文房具代等		720	
切手代		17,470	
払込手数料		4,430	
国際電報料		10,368	
予 備 費	100,000	0	
特別会計へ繰入	1,200,000	1,200,000	
合 計	2,294,358	1,560,888	

昭和61年度特別会計経理決算書

科 目	収 入 額	支 出 額	残 高	備 考
前年度繰越金	10,681,012		10,681,012	内訳
利 息	466,370		11,147,382	1年定期 5,845,577
ユフロ大会助成金		4,500,000	6,647,382	半年定期 801,805
61年度新規定期	1,200,000		7,847,382	1年定期 1,200,000
合 計	12,347,382	* 4,500,000	7,847,382	

* ユフロ大会助成金は別掲支出内訳の通り、支出残高472,600円が保留されている。

ユフロ大会助成金等支出内訳

1. 役員への助成金 11名	1,250,000
2. 発表者への助成金 40名	1,200,000
3. 助成金送金手数料	12,800
4. 開発途上国援助金	907,600
5. 同上送金手数料	4,000
6. IUFRO 世界大会参加募集経費	100,000
7. IUFRO-J NEWS No. 29 印刷代	281,000
8. IUFRO-J NEWS No. 30 印刷代	250,000
9. 特別講演翻訳料	22,000
計	4,027,400
特別会計第18回ユフロ大会予算	4,500,000
ユフロ大会助成金等支出額	4,027,400
残高	472,600

昭和61年度会計監査報告

昭和61年度一般会計、特別会計、ユフロ大会助成金等特別会計について証拠書類と照合監査したところ厳正、正確に処理されており適正と認める。

昭和62年3月23日

会計監査員 湯本和司

昭和62年度一般会計予算(案)

(収入の部)

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	677,014	
61年度未納分	51,000	
62年度会費		
A会費	975,000	
B会費	75,000	
C会費	5,000	C会員6名のうち1名前納
雑収入	4,000	
計	1,787,214	

昭和62年度特別会計予算(案)

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	5,845,577	1年定期A
"	801,805	半年定期
61年度新規定期預金	1,200,000	1年定期B
62年度新規定期預金	472,600	前年度ユフロ大会助成金支出残額
"	350,000	62年度一般会計より繰入れ
計	8,669,982	

昭和62年度一般会計予算(案)

(支出の部)

科 目	金 額	備 考
情 報 活 動 費	615,000	IUFRO-J News 印刷代 180,000×3=540,000 送 料 500×50 ×3= 75,000
会 議 費	70,000	幹事会会議費
旅 費	600,000	ユフロ理事会出席旅費分担
雑 費	72,214	
予 備 費	80,000	
特 別 会 計 へ 繰 入	350,000	
計	1,787,214	

[事務局より]

ユフロ-J ニュース No. 31 より、次のユフロ役員の方々に「研究集会等のお知らせ」を執筆していただくことになりました。

- Div-1 有光 (林試), 塚本 (東京農工大)
新田 (林試), 佐々 (京都大)
- Div-2 勝田 (林試), 小林 (林試)
- Div-3 南方 (東京大), 大河原 (岩手大)
- Div-4 木平 (信州大), 箕輪 (東京大)
熊崎 (林試)
- Div-5 須藤 (林試), 野口 (京都大)
- Div-6 大貫 (林試)

(敬称略)

IUFRO-J NEWS No. 31

昭和62年7月27日

編集・発行：国際林業研究機関連合

日本委員会事務局